



# 博物館ニュース「SHŪ」 NO. 58

“SHŪ” News of Tamagawa University Museum of Education

2022年3月20日

玉川大學教育博物館



## 目次

展覧会への招待	2
博物館の教育活動	3
報告	4
資料をご寄贈いただきました	5
開館カレンダー	
利用案内	6

こくとうこうそくはい

### 黒陶高足杯

口径 7.5cm 高 18.0cm

中国・龍山文化 出土地不詳

りゅうざん

龍山文化とは、紀元前 3000 年頃から紀元前 2000 年頃（日本では概ね縄文時代中期に相当します）の、中国新石器時代の文化で、山東省龍山鎮の城子崖遺跡で発見されたのに因んで命名されました。この文化の土器は、卵の殻にたとえられるように薄手の作りなのが特徴で、この土器も、口の付近の厚さはわずか 1mm しかない、繊細で精巧なものです。表面を光沢がでるほど丁寧に磨き、黒色を呈するように焼き上げているため、黒陶（陶とは土器のこと）と呼ばれます。コップ状の杯の下部に高い脚がつき、脚部には丸い棒で刺してあけられた透かし孔が縦に並んでいます。

## 展覧会への招待

### 原始・古代のアジアのやきもの ―戸田コレクションの土器・陶磁器―

2021年1月に、本学の卒業生で、長く非常勤講師を務められた考古学研究者の戸田哲也氏から、当館の資料の充実に加え、芸術学部で陶芸を専攻している学生たちなどの参考にしてほしいとして、中国先史時代の土器35点、中国古代の土器・陶磁器27点、タイを主とする東南アジアの先史時代の土器16点、合計78点のやきものをご寄贈いただきました。

今回、寄贈を受けた戸田コレクションの土器・陶磁器を広くご紹介する目的で、企画展を開催することといたしました。

戸田コレクションの特色は、もっぱら鑑賞の対象とするばかりでなく、考古学者の視点から、縄文土器をはじめとする日本列島におけるやきものと比較対照する目的で収集され、かつ、かの地でのやきものの歴史が概観できるようにすることにも配慮されている点にあります。

中国先史時代の仰韶文化の彩陶や龍山文化の黒陶、漢時代の彩色を施された土器・陶器、墓への副葬品として制作された明器や、紀元前2000年頃のタイ、バンチェン文化の彩文土器や、その上層から出土した土器など、バラエティに富んでいます。ぜひ、それらの姿をご覧いただきたいと思います。

やきもの展と同時に、特集展示「外地教科書登録有形文化財・登録報告」を開催します。当館で所蔵する、かつて日本が台湾や朝鮮半島などを治めていた時代に、現地で作成・使用されていた教科書を主体とする「近代教科書関係資料（玉川大学収集）」12,728点が、2020年9月に国の登録有形文化財に登録されました。これを記念して、「近代教科書関係資料」の概要をご紹介しますものです。

皆様のお越しを、お待ちしております。



さいとうそうじこ  
彩陶双耳壺（中国・新石器時代）  
高 27.3cm



かさいつぽ  
加彩壺（中国・漢代） 高 36.2cm



さいもんだいつきつぽ  
彩文台付壺（タイ・バンチェン文化）  
高 19.1cm

◆会 期 2022年10月24日(月)～2023年1月15日(日)

◆会 場 玉川大学教育博物館第2展示室 入館無料

◆主 催 玉川大学教育博物館

## 博物館の教育活動

### 火縄銃を手に鉄砲伝来を学ぶ

この発端は、玉川学園の国際バカロレアプログラムで中学社会を担当している先生からの、1本の電話でした。「歴史で戦国時代の単元に進むのですが、鉄砲伝来について学ぶにあたって、参考になる実物の火縄銃を、博物館で所蔵していないでしょうか。」というお問い合わせです。「鉄砲伝来の頃よりずっと新しい江戸時代のものですが、収蔵庫で火縄銃を1丁保管しています。」とお答えすると、ぜひ活用したいということになり、今回の博物館での授業になりました。

この火縄銃は、全長1.08メートル、江戸時代中期のもので、1977（昭和52）年に鹿児島県で収集と記録されています。ただ、銃砲刀剣類登録は愛媛県でなされ、元々の使用地ははっきりしません。銃の口径などから実戦用ではなく、狩猟用かと思われるが、木製の銃床部分に赤い漆を塗って装飾しており、あるいは武家に備えられていたものかもしれません。

11月10日の授業当日、生徒たちが来館すると、まず学芸員から火縄銃の構造、1発発射するまでの填薬・弾込め・照準等の操作や所要時間、射程距離・命中精度や

貫通力、「火蓋を切る」という慣用句などの説明を聞いてもらいました。その後、生徒1人1人に火縄銃を回して構えたりしてもらいましたが、持った時の第一声は「重い」というもので、「鉄砲」という名が持つ意味を納得したようです。中にはクラブ活動が弓道部で、同じ飛び道具である弓矢との違いを、友達と話している生徒もいました。鉄砲以前からの武器として、引率の先生が比較のために持って来られた日本刀（剣道部顧問の先生から借用したという居合用の模造刀）も、生徒たちの気を大いに引いていました。鉄砲によってもたらされた様々なこと、弓矢・槍・刀での戦いから集団での銃撃戦への合戦方法の変化、新兵器として戦国大名たちが鉄砲を欲した理由、南蛮貿易の拡大や火縄銃の国産化、さらにそこから戦国時代を終わらせ、天下統一につながっていく動きなどを、理解する一助になったものと思います。

鉄砲はもちろん、相手を殺傷する能力を持つものです。そのことを弁えた上でこうして授業で使用してもらい、普段展示できない博物館資料が人の目に触れ、活かしてもらえる機会にすることができました。



# 報 告

## 展覧会の開催

### ■企画展「近代日本の学校体育と運動会」

2021（令和3）年度の企画展として「近代日本の学校体育と運動会」を、2021年10月25日（月）から2022年1月16日（日）の日程で開催しました。この展示は、当初、2020年に開催が予定されていた東京オリンピック・パラリンピックに合わせて計画したものでしたが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行により、東京オリンピック・パラリンピックが1年延期になったのに加え、緊急事態宣言の発出により学外者がキャンパス内に自由に入れる状況ではなかったため、1年延期しての開催になりました。

感染症予防の観点から、事前予約制による入場制限を行ない、ギャラリートーク等の展覧会付帯事業の開催も見合わせましたが、会期を通して1,003名のお客様をお迎えすることが出来ました。



企画展「近代日本の学校体育と運動会」展示風景

企画展「近代日本の学校体育と運動会」では、「学校体育のはじまり」「小学校令と学校体育」「運動会」「大正から昭和前期の体育教育」の4つのテーマで展示を構成し、日本近代の進展にともなう学校体育あり方を紹介しました。具体的には明治期の学校体育と運動会の実相に着目しつつ、大正、昭和期に至る学校体育の指導書、教科書、棍棒や亜鈴等の教具、体操や運動会が描かれた書籍、掛図、錦絵等の資料を展示しました。また、玉川学

園で所蔵する昭和6（1931）年のニルス・ブック（1880-1950）一行のデンマーク体操の来日公演や、初期の玉川学園の運動会（体育祭）の風景の映像も好評でした。

担当学芸員による展示解説動画を作成し、当館ウェブサイトで公開しています。

### ■特別展示「新収蔵アイコン展」

企画展「近代日本の学校体育と運動会」に合わせて特別展示「新収蔵アイコン展」を同時期に開きました。

この展示は近年において当館が寄贈を受け、新たに収蔵したロシア・アイコン、ギリシア・アイコン、ブルガリア・アイコン、スペインやバルカン半島の宗教画から成ります。



特別展示「新収蔵アイコン展」展示風景

展示会に合わせて図録『近代日本の学校体育と運動会』及び『新収蔵アイコン展』を制作しました。

### ■明治期の体操法 再現動画の制作

企画展にあわせて、明治期の体操の様子を再現する動画の制作を試みました。

体操の再現にあたっては、展示資料の1つである坪井玄道・田中盛業編『小学普通体操法』（1884／明治17）をもとに、亜鈴と球竿を使用した体操法を再現することにしました。芸術学部の協力を得て、明治期に使用されていた亜鈴、球竿の実物資料を参考にした複製を製作するところから準備をはじめ、完

成まで約2か月半を要しました。体操の実演には、2021年度学芸員資格課程の「博物館実習」履修生15名の協力を得ました。

資料を読み込み、動作を選択、練習して1つの動画として完成させることは、学芸員としての資料の調査、研究から展示に至るまでのプロセスになっていると言えます。



練習の風景

明治期と現代の体操を比較して動作の効果や特徴を、実演に基づきながら取り組み完成した動画は、明治期の体操の様子を描いた錦絵を真似た衣装の効果も手伝って、完成度の高い動画となりました。



動画中の一場面

## 大学1年生の博物館見学

秋学期に入り、本学1年生の必修科目「1年次セミナー」の一環で、当館の見学が行われました。クラス単位の団体見学とする学部が多く、過密状態にならないように注意しながら、学芸員が分担して案内をしました。

## 博物館実習

2022年2月3日から8日まで、本学教育学部教育学科通信教育課程の「2月学芸員スクーリング」で博物館実習を開講し、合計43名が3組に分かれて当館で実習を行いました。受講申込受付を開始した頃から、新型コロナウイルスのオミクロン株による感染者数が急増し、安全を確保しながら開講することが懸念される状況でした。そこでやむを得ず、6日間の日程のうち施設設備を使用した実技を主としない2日半を、急遽インターネットを介しての遠隔授業に切り替える対応をとりました。実習期間がちょうど感染第6波のピークと重なり、受講者・受け入れ側共に緊張感が漂う中での実習でしたが、無事に全日程を終えることができました。

## 統計（2021年4月～9月）

開館日数 115日 入館者数 672名

### 収集

〔資料〕		0件
〔図書〕	和書 338冊	洋書 0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	32冊
	洋雑誌	14冊

## 資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略 2021年9月～2022年1月）

中里 尚子	教育史関係資料	1点	槻木 泰代	教育史関係資料	66点
時津 寿芳	美術資料	1点	その他個人	美術資料	1点

ありがとうございました

## 新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う「臨時対応」のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当面の間、開館時間の繰り下げ、事前予約による入替定員制で開館しています。入館方法の詳細は、当館ウェブサイトをご覧ください。皆様にはご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 2022年度上半期 開館カレンダー

2022年4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

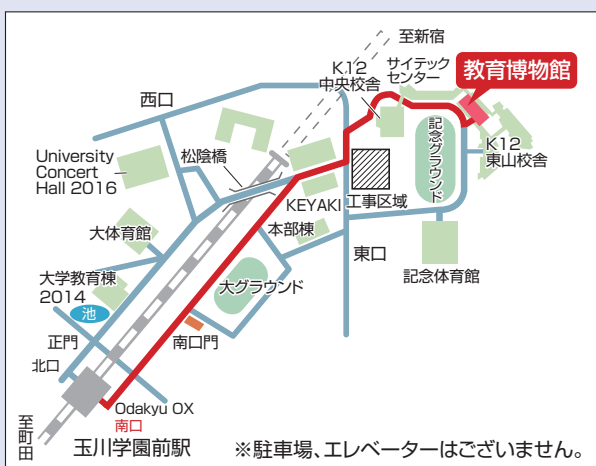
9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

休館日

第1展示室  
(日本教育史常設展示)  
のみ公開

※この予定は、大学授業・行事日程、社会情勢等により変更することがあります。  
詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。電話等にてお問い合わせください。



### 交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15分  
※駅南口から線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門（南口）に行き当たります。博物館にお越しの際は、校門の案内所にて入校手続きをお願いします。  
(来館者用駐車場はありません。お車での来館はご遠慮下さい。)

## 利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間  
(臨時に変更することがあります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。)
- 入館料 無料

博物館ニュース SHŪ No.58

2022年3月20日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

[www.tamagawa.jp/campus/museum/](http://www.tamagawa.jp/campus/museum/)

『SHŪ』は、漢字で『集』とあらわします。  
博物館に「集」められたさまざまなものをめぐり、多くの人々の「集いの場」になるようにと願って名づけました。